

## 「覚悟の磨き方～超訳 吉田松陰～」

編訳 池田貴将 サンクチュアリ出版

まず初めに、昨年の第94回選抜高等学校野球大会に21世紀枠として出場した際、福島県高野連の先生方をはじめ、県内外の高校野球関係者の皆様からご支援を賜りましたおかげで、選手13人が高校球児の夢である甲子園の土を踏むことができました。この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

当時は振り返ると、新型コロナウイルスの感染者を誰1人出さずに全員で大会に出場することができるのか、選ばれたチームとしてふさわしい試合が全国レベルの相手にできるのかなど、心配事が尽きない日々でした。そのような時、「不安と生きるか。理想に死ぬか。」「後悔しない生き方とは何か。」と書かれている帯が目にとまり、宿舎の中や移動中に本書を読む運びとなりました。

幕末の思想家、吉田松陰が継いだ松下村塾は下級武士が集まる塾で、上流階級の武士とは違い、教科書やまともな校舎がなかったそうです。しかし、そこから輩出されたのは、後の日本の礎を築いた人材ばかりです。30年という短い生涯の中、いかに人材を育成したのか。吉田松陰の言葉や思想には学ぶべきことが多くあると感じました。以下、抜粋にて皆様にご紹介させていただきます。

### ○初心の価値

名を上げたいとか、体面を守りたいとか、そんなことを気にするあまり、初心を曲げてしまったらおしまいです。1度曲がった初心は、2度と元には戻らないのですから。

### ○死ぬ気とは何か

「死ぬ気でやる」口に出すのは簡単ですが、意味はとても深い言葉です。この言葉の意味を、人生の中で何度も反芻しているうちに、「我慢するべき時」と「勇気を出してやるべき時」、「動くべきではない時」と「すぐに動くべき時」この違いがだんだん分かってくることでしょう。

### ○上が下に接する態度

上司という立場の人は、どんなに忙しい時でも疲れているときでもどんなに心の余裕がない時でも、部下の意見には注意深く耳を傾けなければならないのです。

### ○憧れの人の精神をつなぐ

私は自分のことを賢い人間だとは到底思えません。ですがこの世の中を救ってきた偉人たちの精神だけは、何とか引き継げるんじゃないかと思っています。自分を育ててくれたものを守るために、できることはそれだけです。

### ○腹が据わっている人とは

「一生やり続ける」すごくシンプルですが、これほど多くを語る言葉もありません。未知の物事に対する恐怖を乗り越えることができるのは、「一生やり続ける」この言葉が背骨に叩き込まれている人だけです。

### ○チームワークの本質

あるチームは何をやらせても「利益になるかどうか」を考えながら行動し、あるチームは何をやらせても「周りにとっての最善はなにか」を考えながら行動します。結局、大きな利益を得るのは後者なのです。